

こまぼんのなるほど！ みなと講座

～港湾・空港のことをもっと知っていただくために～



ぼくの名前は「こまぼん」。小松島港湾・空港整備事務所のマスコットキャラクターだよ。タヌキの耳としっぽが目印。一般公募によって名前がつけられたんだ。

港湾工事現場レポート 徳島小松島港沖洲(外)地区

徳島県と東京、北九州をつなぐフェリー航路を有する徳島小松島港沖洲(外)地区では、現在、港内に進入する波を抑え、船舶による安定的な荷役、船舶の安全な航行・接岸のために必要となる防波堤の150m延伸工事を行っています。今回は、当事務所の工事担当の仕事について紹介します。

現場の声 小松島港湾・空港整備事務所 保全課

当課では、港の将来計画に基づいて岸壁や防波堤の工事を発注し、工事現場の監督を行っています。

仕事内容は、デスクワーク6割、現場監督4割です。デスクワークでは、工事に関する発注資料を作成したり、関係する利用者や徳島県などと調整をしています。また現場では、受注した工事業者が、安全に作業しているか、使用材料は決められた品質を満たしているか等の監督をしています。特に安全に関しては重要で、「つまづかないように現場の整理整頓ができていないか」等の些細なものから、「落下防止のフックを適切に付けているか」「作業機械や吊ワイヤーが点検されているか」等まで確認し、事故が起こらないように努めています。

沖洲(外)地区は、オーシャン東九フェリーや南海フェリー、LNG(液化天然ガス)の運搬船や貨物船等、多くの船舶が行き交う港のため、事前に安全に配慮した計画を立て、利用者と密に調整しながら進めています。今年の1月末に防波堤のケーソン(高さ約7mのコンクリートの箱)を大型起重機船により据え付けた時には、フェリー会社等と10分単位のスケジュール調整を行いました。その結果、事故無く施工を終えることができ、大きな安堵と達成感がありました。

今年度は、沖洲(外)地区の防波堤延伸にかかる消波ブロックの製作工事、築造工事、金磯地区で老朽化した岸壁の改良工事を実施しています。



みなとって…知れば知るほど奥が深い！！～小松島港湾・空港整備事務所リクルート記録2019～

今年当事務所が関わったリクルート活動の一部について紹介します。

7月30日

四国地方整備局管内現場見学会

四国地方整備局では、国家公務員1次試験合格者を対象に、7月下旬～8月上旬にかけて管内の工事現場見学会を開催しました。(徳島県内は7月30日)

参加者は、徳島小松島港赤石地区において実際に目の前で輸入された貨物が運ばれている様子を見学し、物流を支える港の役割やその重要性について関心を寄せていました。見学後には「船や岸壁のスケール感を直接感じる事ができて良かった」「普段生活をしていて港と関わる機会は少ないので、航路の安全確保や空港の整備、海岸や港湾事業等の詳細を聞いて良かった」等、港に対する印象の変化についても口にしていました。

また、就職を間近に控えていることもあり、組織内の女性職員の割合や就業形態等といった、職場としての働きやすさに対する質問も多数受けました。



赤石地区で港湾の役割等の説明を受ける参加者

9月4日

夏期実習生視察

四国地方整備局では、夏期実習生として土木を専攻する大学生を受け入れており、9月4日に実習生が徳島県内の港湾を視察しました。視察当日は、老朽化した岸壁の維持管理の課題や、地震に強い岸壁とその他の岸壁との構造的な差異といった、土木専攻の学生ならではの視点からの質問がありました。

また、「クルーズ需要の増加や港の賑わいづくり等、岸壁を整備した後も効果的に利用していくことを考えなければならないので、奥が深いと思った」という感想を口にしていました。



職員(手前)の説明を聞き、海上から視察するインターン生(奥)

社会・経済を支え、地域の活性化に資する港湾の役割、その重要性の一端を肌で感じて頂けたのではと思います。将来、港に関係する職業に就いてもらえればうれしい限りです。